



生き生きとした明るい学校づくり ～地域に根ざした創意ある教育活動を通して～

佐世保市立黒島中学校

住所 佐世保市黒島町3184



校長名 惣田 正宏
生徒数 6名
学級数 2学級（1・2年生複式）

1 目的

本校の学校教育目標である「豊かな心で主体的に学び、健康でたくましい生徒の育成」を具現化するため以下の項目を中心に、家庭・地域との密接な連携を図り、地域に根ざした創意ある活動を実践する。『小中併設校』から『義務教育学校』へとなるためにさらなる連携を図りながら、「通いたい学校 通わせたい学校 働きたい学校」をスローガンとし、様々な活動の中で「表現力」「活用力」を高めながら成長していくことを目指す。

- (1) 地域に根ざし開かれた学校づくりを推進するための学校行事カレンダーの作成・配布
- (2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進
- (3) コミュニケーション能力と表現力の向上とめざした交流学习の実施
- (4) 職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施
- (5) 基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施
- (6) 食育と保健教育（姿勢教育）の推進
- (7) 地域との交流を深め、地域とともに黒島を活性化させるための活動

2 実践内容

(1) 学校行事カレンダーの作成・配布

本年度も、小中併設4年目として小中学校の年間行事予定を組み込んだカレンダーを作成し、保護者をはじめとして町内全世帯に配布した。カレンダーには前年度に実施した児童・生徒の行事の写真も連載しており、保護者だけではなく、地域全体の学校教育に対する関心・理解が深まり、学校・保護者・地域の協力・連携を促進することができた。

(2) 地域の自然環境を生かした海洋スポーツ（シーカヤック）の推進（7年目）



7月26日、来年度義務教育学校になることから、今回初めて小学4年生以上の小学生と合同でシーカヤック体験学習を黒島の女瀬の湾内で行った。前が小学生、後ろが中学生という組み合わせをつくり中

学生が小学生にアドバイスしながら艇を操作する場面をつくったことにより、教えることの面白さや大変さを通して中学生としての自覚を深めることができた。また、堤インストラクターから、転覆したときのレスキュー法について学び、着衣水泳の応用として安全指導を深めることができた。7年間シーカヤック体験学習に取り組んだことにより、生徒が保護者に

パドルの漕ぎ方を教えたり、卒業生が地域の方に艇の操作法を教えたりする場面がみられ黒島元気シーカヤック大会（高校生以上参加可）では大いに盛り上がりを見せており、黒島のマリンスポーツの振興に大きく貢献するようになった。

（３）コミュニケーション能力と表現力の向上とめざした交流学習の実施

大規模校における学校生活体験（他校訪問・・・中里中学校）

入学後の集団生活への適応は大きな課題である。この課題に取り組むため、毎年生徒全員が大規模校を訪問し、朝の会から帰りの会まで、各学年・学級で学校生活を体験している。今年度は、11月6日、中里中学校にお世話になり、40人近い学級集団の生活を体験させていただいた。最初



は、戸惑いが見られたが、時間が経つにつれ、話し合う場面を多く見られ、相浦中学校の生徒と楽しい時間を過ごし交流を深めることができた。授業中は日頃あまり実施できない多人数でのグループ学習を通して、他者の様々な意見を聞くこと、自分の意見をはっきりと述べることの大切さなど、コミュニケーション能力の必要性を体感させることができた。

（４）職業に対する正しい理解と望ましい勤労観を育むための職場体験の実施

本年度は3年生2名が3日間の島外（10月11日～13日）で、1・2年生2名は、島内の事業所で2日間（10月12日～13日）の職場体験学習を行った。生徒は、各自が興味のある職業について調べ学習を行い、生徒自身が市内や町内の事業所へ体験学習受け入れの依頼を行った。当初は仕事内容を理解しながら作業を進めるのに時間がかかったが、徐々に仕事にも慣れ、従業員の方ともうまく協力しながら仕事を進めていくことができるようになった。生徒たちは、この体験活動を通して、働くことの意義を理解するとともに、仕事をするものの難しさや協力することの大切さを感じ取ることができた。また、コミュニケーション能力の重要性も理解することができた。

（５）基礎学力の向上と確かな学力の定着に向けた取組の実施

A T（アチーブメントタイム）の活用

基礎・基本的な学習内容の定着を目指し、毎日16：15～16：25の10分間をA Tと名付け、年間を通して国語・数学・英語の各教科持ち回りで課題を準備して取り組んできた。取り組む内容は基礎的なものに絞り込み、年間を通して継続させることにより、確かな学力の土台作りとするとともに、学習習慣の定着を図るための取組として実施した。さらに授業中は、A Tの時間で身に付けた力を確認するため、それらを活用していく場面を設定した。また、表現力向上に向けた取り組みとして、弁論大会に向けた練習や発表会に向けた合唱練習にも取り組んだ。校内弁論大会では小学1～6年生も聴衆として参加する中、一人ひとりが堂々とスピーチすることができた。合唱やトーンチャイムなど黒島くんだりや中連音楽会においてその成果を発表することができた。

(6) 食育と保健教育（姿勢教育）の推進

①ふれあい給食

6月の学校公開週間と、1月の学校給食週間の2度、全児童生徒、職員に加え保護者、地域の方をお招きしてふれあい給食を実施した。1月のふれあい給食では、給食感謝標語や給食クイズの発表や給食を作られている方へのメッセージカードの贈呈など、和やかな雰囲気の中で感謝しながら給食をいただく機会となった。

②お魚捌き方教室



生徒はこれまで黒島の中で海を身近に感じ、海の恵みを受けて成長してきた。魚もいつも身近にあり、幼い頃から食卓にあがってきたものであるが、子供たちが各家庭の中で魚を調理する機会が少なくなっているのが現状である。このような中、漁協女性部のみなさんにご協力いただき、1月22日に地元で捕れた魚を使った「魚捌き方教室」を開催し、より効率のよい捌き方や調理を学ぶことができた。

③姿勢教育

10月23日、第2回学校保健委員会で、姿勢指導教育士 高島 くみ先生を招いて「未来が変わる 姿勢のはなし」というタイトルで、児童生徒と保護者向けに講演会を行った。高島先生より、姿勢が悪いとどうなっていくのか、正しい姿勢とは、猫背にならないためのストレッチの方法を実習しながら説明していただき、授業時の姿勢がかなり改善させることができた。



(7) 地域との交流を深め、地域とともに郷土黒島を活性化させるための活動

①あいさつ運動

年間を通して生徒会役員と職員が正門に立ち、登校してくる児童生徒とあいさつを交わしてきた。これは本校の一枚一徳運動「笑顔であいさつ、プラス1（感謝の心）」を具現化するために生徒一人一人、全教職員が取り組んでいるものであり、あいさつを交わすことで優しい心、相手を思いやる心を育て、学校生活を明るく楽しいものにするよう取り組んでいる。

②敬老の日の便り・年賀状作成

毎年、児童生徒全員で町内に暮らしておられるお年寄りの方々に敬老の日の便りと年賀状を作成して郵送している。内容はお祝いの言葉や自分たちの学校生活や家庭生活の様子、お年寄りの健康を気遣う中学生らしいものである。これからもこの活動を通して、長く黒島を支えてきたお年寄りを敬い大切に作る心や、自分たちを見守り続けてくれたことへの感謝の心を育んでいきたい。

③黒島町民・黒島小中学校合同運動会



9月24日、黒島の一大イベントである黒島町民・黒島小中学校合同運動会を実施した。昨年引き続き、Yosakoi させぼ祭りで活躍されている実相院さんにヒップホップダンスをご指導いただき、小学1年生から中学3年生までレベルアップした切れのあるヒップホップダンスを披露し、協力しながら表現することの楽しさを学ぶことができた。また、応援合戦においては、来年度から義務教育学校になることから、縦割りの小中合同の応援合戦に変更し、小中学生のそれぞれが良さを生かしながら応援合戦を繰り広げることができた。

④落語家らっ好さんによる落語会

11月17日、児童生徒は、生で落語を聴くのは初めてであったが、落語の歴史や所作、おもしろさを学ぶことができ、保護者、地域のお年寄りの方も含め大いに笑い楽しむことができた。落語は、こどもからお年寄りまで楽しむことができ、高齢者が多い黒島にとっては、意義がある企画となった。



3 「義務教育学校に向けて」

本年度は、『小中併設校（4年目）』から、『義務教育学校』になるための準備の年であり、昨年度の成果と課題を踏まえた上で、さらに小中合同行事のメリットを最大限に生かした教育活動を推し進めることができた。生徒たちも、小学生の模範になろうと、各行事において意欲的に取り組むことができた。また、黒島の豊かな自然と地域の人たちの中で様々な体験活動を経験し、心豊かでたくましい中学生へと成長できた。

平成30年度から、離島の極小規模校の義務教育学校としてスタートするにあたり、地域の実態、保護者や児童生徒の思いを踏まえ、黒島ならではの義務教育学校9年間のスパンのメリットを最大限に生かしながら、黒島でなければできない黒島だからできる特色ある教育活動を展開し、離島での義務教育学校の先進校としての役割を果たしていきたい。